

「世に勝つ信仰」井上隆晶牧師

ヨハネの手紙一 5 章 1～5、11～12 節、ヨハネの福音書 16 章 28～33 節

①【キリストに愛されている】

エフェソ教会の長老ヨハネは「神から生まれた人は皆、世に打ち勝つからです。世に打ち勝つ勝利、それはわたしたちの信仰です。だれが世に打ち勝つか。イエスが神の子であると信じる者ではありませんか。」（I ヨハネ 5：4～5）と三回も「世に打ち勝つ」という言葉を書いています。そこで世に打ち勝つ信仰とは何かについて三つのことを話そうと思います。

第一に、私たちはキリストに愛されているから世に打ち勝つことができるのです。パウロは「誰がキリストの愛からわたしたちを引き離すことができますよう。…わたしたちは、わたしたちを愛してくださる方によって輝かしい勝利を収めています。」（ローマ 8：35、37）と語ります。ここでパウロはキリストの愛によって私たちは勝利を収めていると言うのです。キリストのあなたへの愛を誰も引き離すことは出来ないからです。なぜこんな罪を犯す私を愛するのですか、と聞くなれば主はこういわれるでしょう。「自分のしたいようにしては、いけないのか。」（マタイ 20：15）「わたしは自分が憐れもうと思う者を憐み、慈しもうと思う者を慈しむ。」（ローマ 9：15）キリストはあなたに一目惚れしたのです。キリスト教の救いとは、一方的に神のものなのです。神が愛したいから愛し、赦したいから赦すのです。人間の側の条件は何もありません。このキリストの愛を知っている人は、パウロのように言うのです。もう勝ったようなもんだ！なぜならこの方の愛がものすごいからです。キリストはどこまでもアダムを捜し、人となってまで天を傾けて地に降り、地獄の底まで捜しに行かれたのです。そして失われたアダムを見つけ、アダムとエバの手を取って天の国へと凱旋されました。この神は人を追いかける神であり、人を救うことに実に熱心です。

●先日、シャロン千里（高齢者ケアハウス）の 90 歳になるクリスチャンの方が永眠されました。長い間教会に行っていなかったのですが、シャロンの礼拝に参加されるようになりました。ご遺族になるお連れ合い様に挨拶に行き、このように祈りました。「一人の歩みが二人になり、洗礼を受けて三人の歩みになりましたね。三人目はキリストです。キリストと一緒に歩いて下さったのです。この歩みは永遠です。主は「私はあなたたちの老いる日まで白髪になるまで、背負って行こう。私はあなたたちを造った。私が担い、背負い、救い出す。」（イザヤ 46：4）と言われました。この世の偶像は人間が背負わなければどこにも行けませんが、私たちの神は私たちを背負う神です。だから安心してください。夫さんはキリストに背負われて神の国にいます。」

②【神の言葉は必ず成ることを知っている】

第二に、キリストの言葉、神の言葉は必ず成るからです。

●榎本保郎牧師はこう書いています。「アブラハムが一人の貧弱な旅人であったときに、神はアブラハムを選んで、お前を祝福の基とすると言われた。そのときのアブラハムの現実からはまったく信じられない約束だったのである。だから私たちは、その約束をなかなか本気で受け取ろうとしない。現実には、何一つその約束の成就を裏づけるような原因が見つからないからである。けれども天地創造の物語の始めにあるように、この天地は原因があって生まれたのではない。神の言葉によってすべてのものは造り出されたのである。たとい今の現実がどうであろうともそれは問題ではない。この神の約束を信じ、委ね、従ってゆく時、私たちは、この世に勝利してゆくことができるのであり、そこにイスラエルの栄光があり、私たちクリスチャンの世に勝つ勝利の道があるのである。」

ヨハネ福音書に「万物は言（キリスト）によって成った。言（キリスト）によらずに成ったものは何一つなかった。」（ヨハネ 1 : 3）と書かれており、私たちはそれを信じています。神の言葉は必ず成ります。その証拠がこの世界の存在です。だから私たちは今、目の前の現実がどんなにみすばらしくても、可能性がないように見えても、希望をもっています。明日、神が動くなら必ず何かすごいことが起こるからです。事実、イスラエルのバビロンからの解放はある日、突然起こりました。ここにこの世に勝つキリスト教徒の信仰の力があります。

③【キリストのように生きることで世に勝つ】

第三に、私たちはキリストを真似て生きているからです。長老ヨハネは 11～12 節でこう語ります。「神は永遠の命をわたしたちに与えられたこと。そして、この命が御子の内にあるということです。御子と結ばれている人にはこの命があり、神の子と結ばれていない人にはこの命がありません。」イエス様こそ永遠の命であり、このイエス様に結ばれて生きることにより、この世から私たちは永遠の命を持つことができます。キリストに結ばれた生き方とは、彼と同じように生きる、彼を真似て生きるということです。

●10 月 2 日はガンジーの誕生日でした。インドは昔イギリスの植民地でしたが、ガンジーは非暴力による抵抗運動を行い、イギリスからの独立運動を指揮しました。1948 年 1 月、ガンジーは狂信的なヒンドゥー教原理主義者によって襲撃され 78 年の生涯を閉じました。ピストルで撃たれた時、ガンジーは自らの額に手を当ててこの世を去りました。それはイスラム教で「あなたを許す」という意味の動作です。ガンジーの平和主義運動はキング牧師など、世界中に大きな影響を与えました。彼はクリスチャンにはなりませんでした。聖書をよく読み、キリストの生き方を真似た人でした。ガンジーは「キリスト教は素晴らしいが、キリスト教徒は駄目だ」と言っています。彼はクリスチャンではないのに、最もクリスチャンらしい生き方をした人でした。彼は名言をいくつも残しています。

・「物事は、初めはきまって少数の人によって、ときにはただ一人で始められるものであ

る。」

- ・「弱い者ほど相手を許すことができない。許すということは、強さの証だ。」
- ・「満足は努力の中にあって、結果にあるものではない。」
- ・「非暴力は人間に与えられた最大の武器であり、人間が発明した最強の武器よりも強い力を持つ。」
- ・「私は失望するといつも思う。歴史を見れば、真実と愛は常に勝利を収めた。暴君や残忍な為政者もいた。一時は、彼らは無敵にさえ見える。だが、結局は亡びている。それを感じる。」
- ・「私は、どこまでも楽観主義者である。正義が栄えるという証拠を示しうるというのではなく、究極において正義が栄えるに違いないという断固たる信念を抱いているからである。」

私たちはガンジーのように、キリストが示された生き方を真似ることによって、この世に勝つことができるのです。それは悪に対して善で返すこと、迫害する者のために祈り、敵を赦すこと、悪人に手向かわないことです。ガンジーは自分を殺す者を赦して死にました。第二次世界大戦の時、アウシュビッツ収容所でコルベ神父も、自分を殺すためにやってきたナチスの兵士を赦しました。コルベ神父の死によって収容所全体の空気が変わったと言います。それまで無気力に生きていた囚人たちが、夕日が沈むのを美しいと言い、「人は獣にもなるが天使にもなれるのだ」ということを知って「人として死のう」という勇氣と希望を持ったそうです。悪と暴力と憎しみと恐れが敗北した瞬間でした。

ガンジーは「恐怖が不信を生むのです。誰か一人でも恐れることをやめたら、我々は争うことをやめるでしょう。」と言っていますが、今戦争を起こしている人や、多くの人の心の中にあるのは恐れです。生きて行けないのではないかという恐れです。

トランプは言います。「入国者が増えたらアメリカは駄目になる」、日本のある党は言います。「外国人が増えたら日本は駄目になる」プーチンは言います。「NATOと西側諸国が入ってくるとロシアは駄目になる」みんな恐れです。強がっていますが、恐れが人を獣に変え、人を殺し、物に執着させ、罪を犯させるのです。クリスチャンと言われている人たちが恐れで支配されて、罪を犯しています。形ばかりのクリスチャンだからです。本当の神の愛に出会っていないのです。本物の愛に出会った人は恐れが消えるはずで。

今こそ、神の愛に本当に支配された人が必要とされています。少数でもいい、本物のキリスト教徒、キリストに似た生き方をする人が求められているのです。人を愛し、赦し、希望を失わないこと、それがこの世に勝つことができる私たちの武器です。まず静まって神の愛に満たされましょう。